

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/1F2F)

事業所番号	2799100066		
法人名	株式会社カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから加島Ⅱ		
所在地	大阪市淀川区加島4丁目2番30号		
自己評価作成日	令和5年11月20日	評価結果市町村受理日	令和6年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各入居者様のニーズに対応できるように 居室担当制としており担当が希望や思いをくみ取り可能な限り対応できるようにしている。
職員は入居者様にとって加島Ⅱが生活の場という事に着目し家事等の生活をメインとしADLの保持に努める認知症介護において結果を求め過ぎず入居者様のペースを優先します。
入居者様に対する敬う気持ちを持ちケアに対するストレスを職員会議等で話し合い日々笑顔で対応できるように努める努力を目指しています
運営推進会議では多数の家族様が参加されており一方通行的な報告会にならないようにしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年、奈良県で立ち上げられた法人は、小規模多機能型居宅介護支援施設(2箇所)を含め、近畿圏を中心に21箇所の高齢者介護施設を運営している。当事業所は平成22年に立ち上げられ14年が経過している。管理者(館長)を中心に外国籍(ベトナム・バングラディシュ)の職員が11名在籍し、時にはお国自慢の料理が昼食や夕食に提供され利用者から好評を得ている。職員面談では、各々「寄り添う」介護を目指し、利用者一人ひとりの変化に対して観察力を身に付け体調変化を見逃さないで素早く、早い対応力を身に付け、日々のケアの中に活かし、明るく・楽しく過ごして貰うようにしようと努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合の外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関。Ev横に提示している	法人の理念のほか、事業所では独自理念「今までの暮らしが、この地域で普通に暮らせる、そんなグループホーム」を考え、「皆が明るいこと、とりあえず笑う」を、コンセプトに管理者が中心になって作り上げている。絵手紙風の手書きの理念は玄関や各ユニットに掲示され、職員は日々の業務の中で振り返りがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為交流が厳しいが少しずつ交流できるようにしている	自治会に加入して地域の情報を得ているが、コロナ禍の中で各種イベントは全て中止となっている。管理者は地域の防災訓練に参加して交流を図っている。事業所内イベント(夏祭り・敬老会・クリスマス会)等を企画して家族と共に楽しんでいる。今後はボランティア団体の受け入れや、地域のイベントに参加しようと企画中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生を通じて。認知症の理解など何でも相談できるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括、民生委員、家族様参加され 現況や計画、事故報告、行事など説明し出席者からの、意見交換など頂運営に反映している	会議は奇数月の午後から(コロナ禍の中で書面3回・実開催3回)開催されている。自治会会長、地域包括支援センター職員、家族(5・6人)、ケアマネジャーらが出席の基に各方面から事前に意見を集め、事業所から行事報告、事故・ヒヤリハット報告がなされている。その後家族会が開催されている。議事録は家族や関係者に郵送されている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者とは連絡を密にとり双方の協力関係を築けるよう取り組んでいる	市の生活保護課には、公的扶助者(6名)の在籍があり、書類の作成や申請書、困難事例等は電話にて連絡を取りアドバイスを受けている。グループホーム連絡会は現状再開されていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員において理解は実践している。毎月のスタッフ会議などで話し合いストレスを溜めないように早期発見に心掛けている。玄関の施錠は、安全性を最優先に考え入居者様及び家族様にも理解頂いている	法人の身体拘束指針のもとに、事業所では担当者、看護師、ケアマネジャーを中心に身体拘束検討チームを立ち上げている。身体拘束適正化委員会を3か月ごとに実施し、2か月毎に研修でのスタッフ会議の中で言葉の変換の仕方の事例検討を行い日々の業務の中取り入れている。玄関は施錠しているがユニット間は解放されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回内部研修にて重要視し話し合うように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる入居者様、家族様には助言をおこなっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が個別に説明し、理解納得ができるように丁寧に説明に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話、メールで、個別で話せる機会を設けケアプランに活かしている 運営推進会議や行事の際に要望、苦情を頂けるように努めている	面会は予約制で時間を決め、面会室や居室での面会が可能となっている。面会の折には体調の変化や日頃の生活の中での好きなこと、新たな好みを口頭で伝えケアプランにも活かしている。	法人からの「ここから新聞」が年に数回発送されている。さらに利用者の様子を家族などに知らせる機会として、事業所から個別な便りに写真や一言メッセージで利用者の様子を伝え、家族からの意見を取り入れることを職員共々工夫されることを希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや常時情報を共有に努めている 毎月アンケート配布にてスタッフ会議で意見や提案の機会を持っている	毎月のスタッフ会議の前に職員からはアンケートを取り事前に意見を集めている。出された提案は会議の中で検討され、モニタリングの後にケアプランに反映されている。職員には外国人の技能実習生、留学生を受け入れており、3か月ごとに行なわれている個人面談では、人間関係や日々の業務の悩みを聞き反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人的な意見や要望など常に代表者に伝える機会を持っている 不安材料はなるべく早く解決できるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月定期的に 内部研修、外部研修を行っている内容は全スタッフ回覧できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会はまだ新型コロナウイルス感染の為 開催は出来ていない。 法人内ではリモートなどで毎週 情報交換を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より希望や思いをくみ取り不安要素の解決に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	密に連絡を取り 不安解消に努め 関係性を深めるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様の希望 能力 意思をくみ取り他のサービスも対応出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力を保持できるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係の継続や修復が出来るように 間に入り調整を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症のリスクがあり外出は難しかったが施設での交流を図っていた	地域の神社や公園散歩を、担当の職員と行っている。親戚の人に年賀状を書く利用者には管理者がポストに投函するよと声かけて楽しみを共有している。入居後に新たに出来たお友達とお部屋でおしゃべりを楽しむ利用者を温かく見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の思いを優先し 職員が間に入り積極的に交流の場を設けるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も 相談や支援に応じる旨を伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様個々のニーズが把握できるように 努め アセスメント ケアプラン モニタリングを行い サービスに反映させている	入居以前の情報を家族や病院訪問、以前のケアマネジャーから情報を集めている。利用者の生活歴、好きな事、嫌いな事、したい事、したくない事の把握に努め記載し、アセスメント記録にて共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様との会話の中からの情報や ヒントその他 関係者からの情報		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ずっと車椅子で座りっぱなしになっていないか？ 疲れていないか？ など把握している。カンファレンスにて検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に家族様へ希望や何か気になる点を伺うようにしている(面会時・郵送・メール)カンファレンスにて家族様の意見も参考に話し合い介護計画を作成している	スタッフ会議の中でモニタリングを行い、3か月ごとにサービス担当者会議を開いている。会議は医師や看護師、家族から事前に意見を集め、担当者、ケアマネジャーが出席のもとに、短期6か月、長期1年を目安に介護計画の変更が為されている。出来上がった計画は家族に説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実行やその状況。又 状態変化や気づきなど介護記録に記入している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や困っている事を伺い その方の合った対応を心がけている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の方 民生委員に定期的に地域の催し物など知らせていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医・家族様・事業所と面談を実施し意見や意向を伺い納得した医療を受けられる支援をしている	入居時に、本人・家族の納得と同意を得て利用者全員が協力医療機関(内科)、希望者が歯科の訪問診療をそれぞれ月2回受診のほか、リハビリ治療の鍼灸師が月3回来所する。他科は、必要に応じ家族または館長(管理者)の通院介助で治療を受けている。看護師は、協力医療機関および訪看ステーションから来所し利用者の健康管理に当たっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問看護など相談している。個別に必要なに応じて訪問看護を対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者と退院調整を 退院前にカンファレンス等で状態の変化などに対して指導を頂いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医・家族様・事業所での早い段階で面談を行い 家族様の希望や意向 医師からの確認を行い終末期のあり方について話し合っている かかりつけ医からも 積極的に面談の希望もある	入居時に、本人・家族に重度化した場合の事業所方針を説明し、利用者の余命が短いと判断される場合には、館長が同席し医師が家族に状況を説明し、病院での延命治療か事業所での看取りかか意思確認を行う。看取り希望の場合には、同意書を取り、医療関係者の協力を得ながら事業所での看取り介護に入る。昨年は多く4名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP作成にて職員に勉強会を行っている	一級河川に挟まれ水災が懸念されるが、消防署指導で2階へ垂直避難する。また、工場と民家に密接し類焼の懸念があり、避難訓練(9月に夜間想定で実施済み、次回3月を予定)を継続している。5年前の強震と大型台風時の館長の適格な行動を職員が記憶しており、飲料水・食料を約3日分を保管しているが、保管場所は再検討の余地あり。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束適正化の算定に伴い 言葉からの制限など振り返り意識している	館長が自ら講師となり人権や接遇を含めた職員研修を行い、利用者一人ひとりの人格・誇りやプライバシー尊重の大切さを伝えている。特に、言葉遣い、トイレ・風呂の閉扉や入室時のノックなどの配慮を心掛けている。家族アンケートからも、職員が明るく話しやすい、利用者や家族の気持ちを大切にしてくれ、相談に乗ってくれると回答している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当制でケアプランのモニタリング(評価表)を記載するなど 担当制とした形をとっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日入居者様全員の希望通りのペースには対応できていないが 可能な曜日を伝えなるべく対応出来るように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性入居者様が多く お洒落に気を使われる入居者様が多く、季節に合った服選びなど楽しまれている様子 男性入居者様には髭剃りなど支援している。全入居者様には常に清潔保持行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けなどにも参加して頂き食事の楽しみを一緒に感じて頂く。又、手作りおやつ・イベント食の時は 職員と一緒に参加して頂いている	昼・夕食の献立と食材は給食会社から入手し、専任職員が素材を活かし手間をかけ調理に当たっている。陶器の趣ある食器を使い、少しでも美味しく食べてもらおうという気持ちと工夫が窺える。数名の外国人職員がおり、出身国の料理を作り好評を得ている。イベント食やおやつも工夫し、利用者の好みや希望も聞き、職員が購入に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活の場では 体重管理 摂取量分析などに状態を管理(かかりつけ医の定期的な採血検査から参考にする場合もある) 栄養指導にて食事バランスなど相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内のケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを活かしてトイレ誘導を行っている	排泄は、利用者にそのしぐさが見られた時や排泄パターンの把握による誘導でトイレでの排泄を心掛けている。利用者は、ごく一部を除き日中も夜間もリハビリパンツ(パッド併用)で過ごしている。夜間には、職員がトイレに誘導する、安眠を重視し大き目のパッドで対応する、ポータブルトイレの使用など一人ひとりに合った対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医のとの連携で排便コントロールを行っている。又 個々にヨーグルト・腹部マッサージなど対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事務所で決めた曜日になっているが 体調配慮にて固定ではなく 入居者様の希望に沿って対応を心がけている	週3回午前中の中の入浴が基本であるが、利用者の体調や都合次第で柔軟に対応している。浴槽は、一般家庭用で二面介助が可能となっている。ひとりで浴槽を跨げたり二人介助で浴槽に浸かれる場合には、職員の介助と見守りで入浴を楽しめるが、車いすの利用者は、シャワー浴や清拭で体の清潔を保つこともある。ゆず湯や入浴剤を使う場合もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢者の状態から 休息の時間を設け 昼寝が必要ならば臥床時間を作る。 馴染みの枕・布団なども家族様にも協力して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の副作用までは理解できていないが 体調変化など早期に気付くように心がけている、又 変化など かかりつけ医に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活を込め 洗濯物を干す・入れる・たたむ・食器洗い・お盆ふき・新聞たたみ・テーブル拭きなど役割を設けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスで中々買い物・外食・季節に合った外出など難しく近くの公園・神社など散歩には行けている	現在、近隣の公園や神社への散歩を楽しむ程度であるが、買い物・外食や以前行っていた個別支援の遠出・車による多人数での外出等はまた再開できていない。利用者や職員は、早い再開を待ち望んでいる。近隣の神社には鎮守の森が残っており、気候の良い時期の散歩や緊急時における格好の避難場といえる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月々の買い物など使用できる金額は家族様と相談して事務所に立替している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛ける、掛かってくるなどの対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、共有部を常に清潔に保ち 不快なく生活できるように支援している	高い天井の高窓とリビング両側の大きな窓が開放感を、リビングに続くデッキ・花壇やバルコニーが変化を醸し出している。リビング一面の大きなソファが、利用者同士であれ一人であれ、ゆっくりと寛げる場になっている。壁には毎月のカレンダー一作品が貼られており、一年の季節感を表し、その力作に目が留まる。掃除が行き届き清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内を自由に過ごされる。馴染みの入居者様同士 居室にてお茶を飲まれながら談笑されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅のお部屋に近い暮らしを 家族様に協力して頂き馴染みの物・お好きな色など個々に個性のある居室になっている	居室には、予め設置のエアコン、クローゼットやベッド(レンタル)に加え、これまでの暮らしが継続できるよう馴染みの家具や備品の持ち込みを推奨している。利用者には、仏壇や家族の写真、記念の贈り物、趣味の作品等を持ち込んだり、安全のためベッド横に厚いマットだけを置いたケースなど種々あり、自分のスタイルを貫いているのが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に工夫努めている 危険と想定する個所の改善b¥などその都度検討して対応している		